

臨地実習（がん看護学）

[実習] 通年 選択 180時間 4単位

《担当者名》○平 典子[hiran@hoku-iryo-u.ac.jp]
熊谷 歌織 [kaori@hoku-iryo-u.ac.jp]
三津橋 梨絵 [mitsuhashi@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

がん治療あるいは緩和ケアを受け、複雑で困難な状況にあるサバイバー・家族に対して、必要に応じてコンサルテーション、倫理調整、調整、教育役割を發揮しながら、多職種あるいはチームで医療・看護に取り組む能力を修得する。また、実習での体験を通して、がん医療における地域連携や地域包括ケアのあり方、ネットワークづくりを探究する。

【学修目標】

1. 複雑で困難な状況にあるがん患者・家族に対して、既習の看護理論、診断や治療に関する専門的知識をエビデンスとし、包括的なアセスメント、問題構造の分析的な捉え、効果的な看護援助の提供ができる。
2. がんの痛み・症状や有害事象を体験している患者に対し、病態生理学、フィジカルアセスメント、臨床薬理学等を根拠とし、妥当性のある臨床判断を行い、適切な身体管理および個別的な直接ケアを提供できる。
3. がんの進行や治療に伴う医療処置を医師との協働により実施し、適切な身体管理および看護実践ができる。
4. 専門看護師としての役割；コンサルテーション、倫理調整、調整、教育を選択的に發揮しながら多職種メンバーと協働できる
5. 実習施設の特徴を考慮し、その状況での専門看護師としての役割開発、地域連携の視点から変化する保健医療システムの中の役割開発について考察できる。
6. 専門看護師活動における自己の実践能力や課題について洞察できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習方法	<ol style="list-style-type: none">1. 臨地実習の成果およびの到達目標を踏まえ、実習課題を明確にして実習計画を立案する。2. 実習計画では、直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理的調整、教育について、既習の知識を活用し、何をどのように取り組むのか具体的に記載する。3. 実習指導者および教員の助言を得ながら、実習計画書に添って実習する。4. 受け持ち患者の回診や症例カンファレンス、緩和ケアチームのラウンドに参加し、患者の病態、治療、痛み・症状に関するアセスメントおよびマネジメント方法について、臨床指導医から助言を得る。5. 実習記録については、各自で様式を作成する。日々実習内容や学びを整理し、適宜、実習指導者や教員から助言を得る。6. 中間カンファレンスの時期については実習指導者、教員とともに調整し決定する。カンファレンスにあたって実習生は実習での学び等について資料を作成する。7. 実習レポートの作成および提出に関しては、実習要項を参照する。 <p>主な実習場所 手稲溪仁会病院、手稲家庭医療クリニック、KKR札幌医療センター 実習期間 おおむね4週間とする。</p>	平 熊谷 三津橋

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習課題の達成状況(50%)、レポートおよびレポートのプレゼンテーション(50%)を総合的に評価する。

【教科書】

なし

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

既習の知識を復習し，関連資料および図書を熟読して臨む．